

2016

vol. 3

春号

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニュースレター

平成28年 3月 発行号

かみずみ家



展示・イベントのご案内

創作人形展

入場無料 DOLL ART EXHIBITION

平成 28 年 3 / 11 (金) ~ 4 / 16 (土)

開館時間 9:30 ~ 16:30 最終日 13:00閉場

稲脇 秀子

■主催/お問い合わせ
旧河澄家 (東大阪市指定文化財)
住所: 大阪府東大阪市下野丁7番1-79
TEL: FAX: 072-984-1640
HP: <http://www.kiyokawadoll.com/>
※主催者 株式会社 アスウエール (TEL: 072-939-7861)

■交通アクセス
近畿国際センター駅より徒歩約14分(徒歩約10分) 徒歩約10分
近畿国際センター駅より徒歩約14分(徒歩約10分) 徒歩約10分
近畿国際センター駅より徒歩約14分(徒歩約10分) 徒歩約10分
※交通アクセスの詳細は、旧河澄家ウェブサイトにてご確認ください。

旧河澄家特別イベント

古文書を読み解く

— 高札・岡村閑翁 襖書等 —

講師 西田 敬之 氏

日時 平成二八年三月二〇日(日)
午後一時三〇分~三時三〇分

参加費 無料 定員 四〇名(予約優先制)

岡村閑翁 おかむらひ かんそう

1827~1894 高札、近世時代の書家、数筆家
寛政10年正月 江戸生まれ。親父名書ゆき屋。高札書家ゆき屋。高札(書巻)屋(工場の書)
等の漢字数詞に名。書物種。俳句(高札)ともいふ。ムツツ(高札屋)ともしり。文政3年
卯辰(1850)に江戸につかえる。俳句種は小学校、中学校の教員をつとめた。大正8年12月14日没。
19歳。大和出身。名は清。字(まご)は仲吉。

■主催/お問い合わせ
旧河澄家 (東大阪市指定文化財)
住所: 大阪府東大阪市下野丁7番1-79
TEL: FAX: 072-984-1640
HP: <http://www.kiyokawadoll.com/>
※主催者 株式会社 アスウエール (TEL: 072-939-7861)

■交通アクセス
近畿国際センター駅より徒歩約14分(徒歩約10分) 徒歩約10分
近畿国際センター駅より徒歩約14分(徒歩約10分) 徒歩約10分
近畿国際センター駅より徒歩約14分(徒歩約10分) 徒歩約10分
※交通アクセスの詳細は、旧河澄家ウェブサイトにてご確認ください。

上田秋成

元大手前大守 著

藤井 千年氏 講演

と 成語

雨月物語

「雨はれて、月形にさすむ夜—」
妖美怪奇な9つの話

2016 年 3 月 27 日 日 13:00~15:00

定員 30名程度 (当日参加可・予約優先制)

場所 旧河澄家 (東大阪市指定文化財)
大阪府東大阪市下野丁7番1-6-39
TEL&FAX 072-984-1640

藤井千年氏 講演会
上田秋成の日本文学史上における位置・特徴・評議
『雨月物語』の解説

◆裏面もご覧ください

企画展

「稲脇秀子 創作人形展」
2016年3月11日(金)~4月16日(土)

イベント

「近代古文書を読み解く」
- 岡村閑翁 襖書にて -
2016年3月20日(日)

「上田秋成と雨月物語」
2016年3月27日(日)

定期開催

「論語の素読会」
毎月第2・第4土曜日開催
詳細はお問合せください

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。

もくじ

02 展示・イベントのご案内

04 特集 凧の世界

06 日下のはなし

07 河澄家の自然

-季節のアルバム-

「くちなしの実・紅白南天」

08 イベントレポート

- ・8/22 紙パックで作る手作りはがき
- ・8/23 粘土で手形をとろう
- ・1/28 論語の素読会
- ・1/10 カマドで作ったお粥を食べる

10 イベントレポート

- ・1/5-1/30 市原卓生 凧展

11

- ・12/1-12/20 河澄家の動物たち



表紙写真：「ひな人形展（イベントチラシより）」



▲竹を曲げ、糸を引っ張る



◀糸をほくす

柔らかくなる▶



河内木綿

江戸時代、河内で盛んであった河内木綿

綿繰り機で種と分離した綿は、硬い塊のままだと糸にする時に作業がやりにくくなりますので、ほくして柔らかくします。竹を曲げて糸を張った弓をつくり、弓の糸に、綿繰り機で種と分離した綿の塊を絡ませます。糸を軽く何回もはじいていきますと、徐々に綿がほくれていきます。ほくれた綿は柔らかくてふわふわしています。

「つつく」



特集

凧の世界

く 凧に魅せられてく

かつては「和凧」で遊ぶ子ども姿がよく見られました。「市原卓生 凧展」にて展示致しました様々な凧をその歴史・種類とともにご紹介いたします。



角凧

江戸の凧の代表と言えます。角凧は日本独特の凧で、正方形のものもあります。軽くて比較的、揚がりやすい凧です。



連凧

小型の凧を連ねたもの。連凧は揚げると風を受けてアーチ状にふくらみ、迫力があって、とても見栄えのいい凧です。連なっており、通常の凧より揚げるのが難しくテクニックが必要となりますが、大空に揚がる姿は、まるで空に昇る龍のようです。

凧の歴史

日本の凧の記録は、天慶元(998)年に成立した辞書『和名抄(わみょうしょう)』に「紙老鴟(しろうし)」として登場するのが最初です。中国では戦や占いに使用されていましたが、平安時代には娯楽用品として日本に伝来し、戦国時代には戦で敵との距離を測るために使用されました。江戸時代に入ると、長崎県の出島でオランダ商館の使用人たちが凧あげに興じたことから凧が流行、江戸の武家屋敷では凧揚げで損傷した屋根の修理に毎年大金を費やすほどでした。

凧が正月にあげられる理由

元来、凧は正月以外の時期にもあげられていましたが、江戸時代ごろから正月にあげられるようになりました。その理由については定かではありませんが、いくつかの説があります。

「幕府の対策説」江戸の庶民の間で凧あげが流行すると同時に、武家屋敷や参勤交代の列に落下するなどの事件が起きました。そこで江戸幕府は、参勤交代の行列



セミ凧 (写真上右)

セミの格好をしたもの。神奈川県寺院が発祥の地とされています。

からくり凧 (写真上中)

からくりが仕掛けられた凧。この凧は両目が回転します。

小さい凧(子凧・ミニ凧) (写真左)

手のひらサイズの凧。この大きさの凧も揚げることができます。



唐人凧

鬼が兜に噛み付いて離れない図柄など、図柄は近年増えて約20種を数えます。凧の下部が全長の約半分をしめているのがこの種類の特徴です。

のない正月に凧をあげるように命令。このため、凧は正月にのみあげられるようになりました。

「お祝い説」江戸時代、男の子が生まれた家庭では跡継ぎの出生を祝うために正月に凧をあげました。凧あげには厄除け祈願の意味も込められていたとされ、この風習が現代にまで残りました。

「陰陽五行説」陰陽道の陰陽五行説にもとづいて、火の力を強めて金の力を弱めることにより無事に正月を迎えるという意味を持つたまじないだったとされています。

外国の凧の呼び方

KITE(とんび)	英語
DRACHEN(竜)	ドイツ語
CERF-VOLANT(くわがた虫)	フランス語
COMETA(彗星)	スペイン語
AQUILONE(北風)	イタリア語
PAPAGAIO(鸚鵡)	ポルトガル語
LAJANG LAJANG(飛行物体)	インドネシア語
CAI-DEU(鳥)	ベトナム語
鳳巾・紙鳶・鳳鳶・風箏・風禽・鷄子 春声君・紙鷗・紙老鷗・毫見・風瓦 放風箏など	中国語

凧の種類

凧の形は、風の強さによって決まります。

例えばこの「唐人凧」(写真左)は、浜風の強い千葉県上総湊の凧です。強い浜風によって凧が壊れないように細身に作られています。ちなみに、今日、私たちがよく目にするキャラクターなどが描かれた凧は「ゲイラカイ」と呼ばれるものです。*ゲイラ(Gayla)とは発売したメーカーの名で、登録商標です。

[歴史コラム]

下 日之 下 滞

豊かな歴史と文化の街・日下

生駒山麓～日下地域、河澄家の過去から現在に至るまでのおはなし

【上田秋成の日下滞在】

「雨月物語」の作者として知られる上田秋成は、寛政十年五月二十日頃から同年九月上旬まで日下に滞在しました。前年に妻を無くし、さらに両目も失明するなど不幸が重なっていた時期で失意に陥っていました。こういう事情の下にあった秋成に、日下で庵を結んでいた足立紫蓮という尼僧から誘いを受けました。足立紫蓮とは昔からの顔なじみであったようで、日下を訪れたのは初めてではなかったようです。秋成の随筆「山霧記」に日下滞在中の様子が書かれています。「山霧記」は五月二十日から七月三

十日までのことを記しています。日下のことを「山里ながら家たち並びて、人気遠くもあらず」と村の様子を記しています。「山霧記」を読んでいると、生駒山の自然や小川のせせらぎの音の事などの描写から自然を敏感に感じとっていたことが伺われます。秋成は紫蓮の庵に滞在していましたが、紫蓮が病気になったので今ではなくなってしまった正法寺に移ります。正法寺跡は今の丹波神社の下ですが紫蓮の庵跡は不明です。「山霧記」には、河澄家・大龍寺・正法寺・森家など比較的近い場所が記されています。秋成の目が不自由である事を考えればその行動範囲も限られてきます。紫蓮の庵もさほど遠くない場所でしょう。秋成は河澄家にも出入りしていたようです。河澄家には、六月十二日の記事に、「朝霧ふみ分けつつゆく、河澄の常之か家、ゆく手なればまつ入る」と書かれています。御所が池のことについて、「衣に市へ、慶安の比、大阪の在藩會我丹波守殿と申せしかほらせて、森の家に領せさせし由也、(中略)守はわらは病して、森の家のやとりなからに終わられしとや。

かの家の園地、川(河)澄の家をもつらねて、この君の造られしとや」とあります。かの家の園地とは森家の庭園「鳴鶴園」のことです。「鳴鶴園」は、当時大阪でも有名な庭園でした。ここで注目されるのは會我丹波守古祐は森家に仮住まいをして、そこで亡くなったとしています。河澄家の「棲鶴楼」、森家の「鳴鶴園」共に鶴が出てきます。鶴が飛来でもしていたのでしょうか。白鷺を鶴と見立てたとも言われています。秋成の著作には生駒山のことを、「生駒根」としてよく出てきます。生駒山は、大阪平野から遠望でき、大阪生まれの秋成にとっては日ごろから見慣れた風景であった事でしょう。



棲鶴楼 扁額



棲鶴楼

河澄家の自然

— 季節のアルバム —

くちなしの実・紅白南天

くちなしの実

河澄家の庭にクチナシの木があります。夏ごろには白い花が咲き、ジャスミンのような香りを漂わせていましたが、秋の終わりごろになると、赤黄色を帯びた鮮やかな実をつけます。日本・中国に自生するアカネ科クチナシ属の常緑低木で、果実は山梔子(さんしし)と呼ばれ、漢方の生薬の一つとして利用されています。また果実にはカロチノイドの一種クロシンが含まれ、乾燥させた果実は古くから黄色の着色料として用いられました。繊維などを染める他、食品にも用いられ、サツマイモや栗、和菓子、たくあんなどを黄色に染めるのに用いられました。

河澄家のご近所の方々もお正月の栗きんとんを黄色に染めるためにクチナシの実を取りにこられたようです。



くちなしの実

紅白南天

晩秋の頃から、河澄家の庭の南天が実をつけています。珍しい白南天も実をつけています。南天は日本や中国で自生する常緑低木ですが、日本で南天と呼ばれるようになったのは鎌倉時代の頃からといわれています。音読みすると「難(ナン)を転(テン)じる」という意味にも通じることから縁起木として好まれるようになり、厄除けとして邸内に植えられたようです。また南天実(ナンテンジツ)と呼ばれる完熟した果実を天日干



前庭(南天・白南天)

したものを漢方薬として用いたそうです。この南天実には多くのアルカロイドが含まれているとされ、咳止めや喘息などに効果があるといわれています。このようなことから南天は、お正月に生け花や門松に用いられるなど、祝いの日にはかかせない縁起物として好まれるようになりました。青空に映える南天の赤い実は、冬の風物詩。正月飾りとしても欠かせませんが、寒さの中で存在感を示している南天の実には力強さを感じられます。



KAWAZUMI REPORT

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました！
詳しいイベント報告はホームページにも掲載中です。

紙パックで作る手作り絵がき

二〇一五年八月二十二日開催

牛乳パックから紙をつくり、好きな模様などをに入れて、絵がきを作りました。なかなかできない体験だったようで、参加者の皆さんはご家族で楽しんで作っておられました。使用済みの牛乳パックをミキサーにかけて、細かく砕き、葉書の型に成型します。水分をとって干して、乾燥したらできあがり！思い思いの絵を描いた、自分だけの絵がきが完成しました。

粘土で手形を取ろう

二〇一五年八月二十三日開催

彫刻家・本多紀朗先生にお越しいただき、開催しました。焼き物用の粘土を使用し、形を整え、手形を押します。スタンプも挑戦しましたが、これが案外かたくて大変です。手形をとったあとに絵具で色を塗ります。焼きあがったら色がはつきりと出てきます。子どもさんにも大変好評でした！

論語の素読会

二〇一六年一月二十八日開催

『論語』とは孔子と彼の高弟の言葉や行ったことが記された書物です。難しく感じられるかもしれませんが、先生がやさしく丁寧に教えてくださいます！大人の方はもちろん、小学生以下のお子様や、学校の授業のために準備をしたい学生さんにもおすすめの講座となっております。

十三名の方にお越しいただき、第一回の講座が開催されました。参加された皆さんは先生のお話に興味深く聞き入っておられました。



毎月第二・四土曜日に開催致しております。
予約優先制です。詳細はお問合せください。

※教材はこちらでご用意いたします。

※床は畳ですが、座椅子の用意もございません。希望される方はご予約の際にお申し付けください。

※三歳以上参加可能(未就学児保護者同伴)

※連続した講座ですが、途中からの参加でもご理解いただける内容となっております。

日時…毎月第二・第四土曜日

場所…旧河澄家(棲鶴楼)

講師…大戸弓彦 持物…筆記用具



KAWAZUMI REPORT

カマドで作ったお粥を食べる

二〇二六年一月一〇日開催

孔舎衛校区福祉委員会の皆さんが中心となつて、旧河澄家の土間にあるカマドに火を入れて、鉄製の釜でお粥を炊きました。子ども達と一緒に、カマドの焚口に薪を入れる体験をし、七草粥の唄も合唱しました。また、「かざ車の会」の皆さんによるお正月遊びもあり、食に関するミニ展示も行いました。今ではカマドに火を入れる機会もほとんど無くなり、年配の方からは「なつかしい」、「カマドでつくったお粥はおいしい」といった感想が寄せられました。当日は、地元の方はもちろん、市外や府外からも三〇〇人弱の方が見えになり大人から子どもまで一日中楽しんでいただきました。近畿大学の学生さんにもお手伝いいただき大変助かりました。



近畿大学 峰滝ゼミ イベントレポート

近大 華学

REPORT

峰滝ゼミ

平成二八年一月一〇日(日)に「カマドで作ったお粥を食べる」が開催され、峰滝ゼミ6期生は初めて全員でイベントに参加させて頂きました。

七草粥には無病息災と今年一年の無事を祈願するという意味があり、お粥イベントでは旧河澄家のかまどに実際に火をいれてお粥を炊き、ご来館いただいた方に召し上がって頂きました。このカマドは明治時代から一〇〇年以上伝わる釜であり、現在ではカマドが残っているお家は少なくなっています。また、お粥も関西地方の伝統的な食べ物ですが、食べる機会も少なくなっています。今のガスや電気だけでなく、昔から伝わる方法でお粥を作り、食べて、昔の人の食生活を体験していただくために開催されました。この

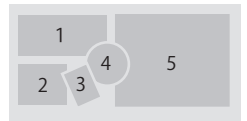
日は一〇時、十二時、十四時の三回お粥を炊き、三〇〇人近いの方にお粥を召し上がって頂きました。お粥と一緒に提供したお漬け物は事前に峰滝ゼミ生が漬けていたもので、ご来館頂いた方にとっても好評でした。また、昔遊びのコーナーでは、笛や風車、羽根つき、ブンブンゴマなどの昔懐かしいお正月あそびを体験して頂きました。どれも牛乳パックやフィルムなどで簡単に作れるので、小さなお子様は自分たちで作って楽しまれました。地元の方々に旧河澄家についてお話し頂き、旧河澄家を知る貴重な時間となりました。これから行われるイベントもとても楽しみです。





<注釈>

1、連凧 2、浮世絵の和凧 3、六角凧 4、江戸奴凧 5、大型の角凧



特別展示

市原卓生 凧展 《凧作りに挑戦 1月11日》

～凧に魅せられて45年～

2016年1月5日～1月30日

市原卓生

一九四二(昭和十六年)、高知県沖ノ島生まれ。
一九七二(昭和四十六年)、和凧と凧揚げ文化の継承を目指し活動する「日本の凧の会」に入会。凧作り教室の講師を務めるほか、一九九〇年にはフランス・パリで行われた凧揚げ大会に参加。日中友好二五周年記念行事やハワイのジャパネーターでの凧揚げに参加するなど、日本の伝統凧を広めるため国内外で活動している。

期間中は、旧河澄家の中に和凧がズラリ！長さ50メートルの連凧や、縦1.8メートル、横1.2メートルのル大凧や連凧が出迎えます。座敷では源義経や金太郎、竜、浮世絵など、染料を使用し忠実に伝統凧を再現した和凧が並びます。福岡・柳川の金時凧、大分・豊後高田のこま凧、大阪・西成の勝間凧などの郷土凧や、干支を描いたものなど約一四〇点を展示。これらの凧は、市原先生ご自身が製作から描画までこなされているそうです。いろいろな種類の凧が並ぶ様子は、まさに壮観でした。

一月十一日(祝)に『凧作りに挑戦！』が開催されました。実際に和凧の製作に挑戦するというイベントです。凧をあげた経験はあっても、作った経験はないという方がほとんどでした。市原先生ご指導のもと、参加者の皆さんが実際に凧を製作していきます。まずは竹を組むところから。骨組みの上に紙を貼って…完成したら、マジックで絵を描いて、オリジナルの凧に仕上げしていきます。最後は絵を描いた凧をあげます。この日は近くの中学校のグラウンドをお借りして、みんなで凧をあげました。当日は天気がよく、ときおり風が吹いたため、比較的凧あげがしやすい気候でした！



『凧作りに挑戦！』の様子
色とりどりのオリジナル凧が出来上がりました。

特別展示

河澄家の動物たち

二〇一六年十二月一日〜十二月二〇日開催



六曲一双花鳥図屏風

河澄家所蔵資料の中から動物をデザインした資料を展示しました。河澄家には植物をデザインした資料は多くあるのですが、動物をデザインしたものは非常に少ないのです。「棲鶴楼」の



二曲一隻鶴図屏風



唐獅子に牡丹図



紅葉に猿図



亀石

西側に廊下を仕切るためにはめ込まれている杉戸には、表裏に猿と獅子が描かれています。作者は不明ですが、「棲鶴楼」側には、牡丹と獅子が描かれています。牡丹は百花の王、獅子は百獣の王といわれており、「棲鶴楼」の格式に合わせたものでしょう。今回の展示では、外して四面同時に御覧いただけるようにしました。屏風二点のうち一点は、孔雀の親子が描かれています。もう一つの屏風には鶴が描かれています。屏風のような大きなものは、今では飾る場所も無くなってきましたし、家の中で見る機会も少なく、美術館等

へ行かなくてはなかなか見ることが出来ません。屏風のような伝統的な美術作品は古民家に良く似合います。盆には、鶴と亀を漆の上に金粉を蒔いて描いています。盆は物を載せる実用的な器ですが普段使いのものにも立派な装飾を施しています。鏡は鶴と亀、松がデザインされています。鶴・亀・松は縁起物としてよく見られる組み合わせです。「棲鶴楼」扁額は、江戸時代の深い僧侶が書いたもので、かつて座敷の「棲鶴楼」に掲げられていました。「棲鶴楼」は鶴、お庭には亀石が配置されており、鶴亀の組み合わせです。河澄家には鶴に関わる作品が多く見られます。森家にも「鳴鶴園」という庭園がありました。鶴は縁起がよい動物とされていますので鶴の名がけられたのでしょうか。それともこの地に鶴が飛来していたのでしょうか。


【2016年3月～】 旧河澄家イベントカレンダー

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する場合がございます。詳しくはお問合せください。

稲脇秀子 人形展

3/11 (金) 人形作家「稲脇秀子」による展示。人形を創りつづけて40年、関西テレビ「よーいどん」でも隣の人間国宝に選ばれました。妖精やピエロ、そして和の人形、幅広い作風です。力強く繊細な作品を是非ご覧下さい。

~4/16 (土)
9:30～16:30
予約不要 無料




注目!

古文書を読み解く

3/20 (日) 河澄家の襖に描かれた「岡村閑翁」の書を読み解いて解説致します。過去の時代を豊かにイメージし、深く読みこむことが古文書の醍醐味です。今回は春の季節の書を読み解きます。あわせて、河澄家の高札も読み解きます。

13:30～15:30
予約不要 無料




注目!

上田秋成と雨月物語

3/27 (日) 「雨月物語」とは江戸時代、上田秋成という人物によって書かれた怪異小説集です。古典的名作の「雨月物語」を上田秋成という人物を物語を通して、掘り下げていきます。

13:30～16:00
(上映時間)
予約優先 無料



江戸時代にタイムスリップ

4/17 (日) 外国人・留学生・在日の方々を対象とした、体験型イベントです。河澄家を見学しながら、江戸時代の暮らしに触れていただき、こいのぼり作りも体験できます。詳細はお問合せください。

12:30～16:00
予約優先 無料

東大阪市指定文化財

きゆうかわずみけ 旧河澄家

所在地 〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
 電話番号 TEL/FAX 072-984-1640
 ホームページ <http://www.kyu-kawazumike.jp>
 開館時間 午前9時30分～午後4時30分
 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)
 祝日の翌日・12月29日～1月3日
 入館料 無料
 駐車場 駐車場は5台(無料)
 満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

- アクセス方法
 - 公共交通機関をご利用の場合
 - ・近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約20分
 - ・近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約20分
 - ・近鉄奈良線「瓢箪山駅」又は近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四條畷行き」又は「住道行き」に乗り「南日下」バス停より徒歩15分
 - ・JR学研都市線「住道駅」又は「四條畷駅」より近鉄バス「瓢箪山駅行き」に乗り「南日下」バス停より徒歩約15分

マイカーをご利用の場合
 ・旧国道170号線「日下町4丁目」交差点を東へ、約600m直進

■ 指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861
 FAX: 072-952-4304
 URL/E-mail <http://www.asuwell.co.jp> / mail@asuwell.co.jp



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。

